

ほたる狩りの大入道 おおにゅうじょう 京都府

むかし、おばあちゃんがまだ小さかったころ。お兄ちゃんたちと田んぼへほたる狩りに行きました。

帰り道、一番後ろを歩いていたおばあちゃんは、みんなから少しおくれてしまいました。ふと気がつくと、前に人が立っています。暗いので、だれだかよくわかりませんが、子どものようなです。近づいても動くようがありません。おばあちゃんは、

「そこ、どいてくれる」といいましたが、どいてくれません。お兄ちゃんたちはどんどん先へ行ってしまいます。何度も、

「どいてくれる」といいながら、手でおしのけようとなりました。すると、とつぜん、その人が大きくなりはじめ、ぐうんと、大きな大入道になったのです。

おばあちゃんは、「わあっ」といって、ひっくり返ってしまいました。そのとたん、大入道は、ぽかっと消えました。

お兄ちゃんたちがさけび声を聞いて走ってきましたが、大入道はどこにもいませんでしたとき。

村上郁再話

知人が祖母から聞いた話